

たんちよう

JAくしろ丹頂
広報誌

vol.138
2019.4

くしろ丹頂

良質乳出荷農場 表彰



左から 折笠会長、松井さん、斉藤さん、橋村さん、宮崎さん、林さん(代理)、伊藤さん、武藤組合長

CONTENTS

- 第51回宇都宮賞 瀧澤義一会長 受賞 1
- 平成30年度農協功労者表彰 白木良雄常務 受賞
- 根釧合同JA役員研修会 2
- 酪農振興会「酪農祭」 3
- JAと酪農振興会との意見交換会
- チャレンジ60「946運動」酪農シンポジウム 4
- 海外酪農視察研修報告 5~8
- 乳質改善PJ情報局 9
- 普及センターだより 10
- JA北海道大会パネルディスカッション 11~12
- JA共済からのお知らせ 13~14
- JAグループ通信 15
- 辞令発令 / 新採用職員の紹介 / 退職者 16
- 理事会報告 / 生乳生産実績 17
- JAジャンプ広告/ちよっと一息頭の体操「ナンプレ」 18
- ゴールデンウィーク日程表 19



瀧澤義一会長 宇都宮賞受賞



祝 第51回 宇都宮賞 瀧澤義一 会長 受賞



3月1日、札幌パークホテルで、北海道酪農の振興発展に寄与した個人等の業績を讃える「第51回 宇都宮賞表彰式」（宇都宮仙太郎翁顕彰会主催）が行なわれ、「酪農指導の部」で当JA瀧澤義一会長が受賞致しました。

受賞に至った選考理由として、平成23年ホクレンの代表理事副会長に就任、「生乳生産安定対策」

等の構築に指導力を発揮するとともに、酪農家の所得向上と経営基盤の強化を図るため、草地の適期更新、搾乳牛の増頭や搾乳システムの改善等、酪農が抱える諸課題の解決に向けた支援対策実現に貢献。

加工原料乳生産者補給金制度について、チーズや液状乳製品向け生乳への交付対象の拡大を国に働きかけるとともに、改正畜産経営安定法において同補給金が恒久的制度として措置される中で、生乳の共計・共販体制が適切に維持されるよう提言するなど、北海道酪農の長期的な安定・向上に尽力。

（一社）ジェネティクス北海道副理事長、（一社）北海道酪農畜産協会副会長、（一社）中央酪農会議副会長など酪農関係団体の要職を歴任し、全国的な生乳の需給調整に指導力を発揮し、生乳の安定供給や酪農家の所得拡大に尽力するなど、わが国酪農業界全体へ大きな功績を残す。

平成18年、当JAの合併時には、中心的な役割を果たし、代表理事組合長として、農業振興計画、農



祝賀会で謝辞を述べる瀧澤会長

協中期経営計画の策定を指導するとともに、組合員の経営安定や農協経営の健全化に取り組んだ実績が高く評価されました。

3月23日には、ANAクラウンプラザホテル釧路でJA主催の祝賀会を開催し、出席頂いた組合員及び関係者の皆様方からの大きな拍手で会場が包まれ、多くの祝福を受けました。祝賀会に参加して頂きました関係各位の皆様方におかれましては、ご多忙の中ご列席頂き誠にありがとうございました。





平成30年度 農協功労者表彰

白木良雄 常務 受賞



表彰される白木良雄常務

3月12日、ANAクラウンプラザホテル札幌で、JA北海道中央会の通常総会が開催され、その中で平成30年度北海道農業協同組合功労者表彰式が行なわれ、当JA白木良雄常務が受賞致しました。

平成18年の当JA合併時には、金融共済部長として合併実現に大きく寄与し、参事就任後は組合員との意思疎通と密着化を強化した事業運営を図るなど組合員の所得向上とコストダウンを実践した実績が評価されました。

今回の受賞者は、JA役職員、連合会役職員計30名が表彰されました。

環境の変化に適応した経営判断能力の啓発を!!

～根釧合同JA役員研修会～



講師：古庄 貴司氏



講師：東谷 暁氏



ジャーナリストの東谷暁氏は、「農協改革の構図と本質」今後の行方を踏まえて」と題して講演し、農協「改革」は、生産性の向上だけではなく、「戦える組織」を目指すべきであり、日本における農協「改革」とは、農業と組織の破壊運動である等について提言し、学ぶ事の多い意義ある研修となりました。

2月8日、釧路プリンスホテルで、JA役職員をはじめ関係団体などから約200名(当JAから18名)が参加し、根釧合同JA役員研修会が開催されました。

(株)Brassica(ブラシカ)の古庄貴司代表は、「ICTで農業に革命を!」と題して講演し、ICT(IT技術の総称)を農業に有用、京都市内の農場で実際に野菜の生産・販売を実施し、「味の良さ」をコンセプトにした安定的な栽培技術を開発。現場を中心に考え、農業に限らず、幅広い業界に向けてIT活用を促進しております。

酪農振興会「酪農祭」開催

～酪農講演会及び良質乳出荷農場を表彰～



懇親会で情報交換



ビンゴで商品ゲット!!



黒澤信道 講師

講演会の様子

2月21日、鶴居村総合センターで当JA酪農振興会主催の「酪農祭」が開催されました。

組合員及び関係者合わせて70名が参加し、当JA営農相談課黒澤デイリーアドバイザーが講師となり『もったいないと考える酪農』と題し、講演が行なわれました。乳牛の飼養管理の中で大切な事は、「牛に与えるストレスや安楽性などについてどんな所に無駄が発生しているのかなどを検討する事。また、今後の世界の流れを考えた時、土地や草といった資源、牛や

良質乳出荷表彰農場

(体細胞数の部)

最優秀賞	音別	宮崎昌行農場
優秀賞	鶴居(合)	橋村農場
優秀賞	鶴居	斉藤和弘農場
努力賞	幌呂	松井俊治農場

(生菌数の部)

最優秀賞	白糠	林善幸農場
優秀賞	幌呂	小田洋正農場
優秀賞	幌呂	伊藤尚之農場

人間の力が有限であるならば、持続可能な農業や酪農の発展を目指す取り組みが必要であり、その達成には『もったいない』という気持ちが大変で、SD(持続可能な発展)が国際基準となっている中、私たちの酪農における目指すべき理想の姿があると思います」とまとめました。

また、良質乳出荷農場表彰式では、平成30年1月～12月出荷乳量に対する体細胞数・生菌数が優秀な7農場が表彰されました。その後、ゲーム等を行ない懇親を深めました。



「第3次地域農業振興計画・JA中期経営計画」策定に係る JAと酪農振興会との意見交換会 開催

先般、鶴居本所で「第3次地域農業振興計画・JA中期経営計画」策定に係る意見交換会がJA役職員・酪農振興会々員計26名が参集し行なわれました。

JAより第2次地域農業振興計画・JA中期経営計画（平成26～30年度）についての検証結果を報告。平成31年度からの「第3次地域農業振興計画・JA中期経営計画」に係る地域農業・JA経営基本目標（ビジョン）となる地域農業やJA経営のありたい姿、5年後の具体的な農業振興・JA経営目標により目指す姿等について説明がありました。

そして、地域農業・JA経営基本目標の実現に向けてJAが組合員、利用者、地域に何を提供すべきか。重要課題における部門別の使命、部門目標、年度別行程、損益計

算等について検討、協議し、会員からは、多くの建設的な意見が出される等、充実した意見交換会となりました。これらの意見を踏まえ、春季地区懇談会において提案説明がなされます。



チャレンジ60「946運動」酪農シンポジウム

3月15日、釧路プリンスホテルで、管内の酪農家及び各関係機関から110名（当JAから15名）が参加し、チャレンジ60「946運動」酪農シンポジウムが開催されました。

（二社）Jミルク専務理事 前田浩史氏より「国際貿易交渉の進展と日本酪農の価値向上に向けて（グローバル競争下でのSDGs酪農／人・牛・地域・環境に優しい日本

酪農の実現を目指して）」と題し、日本酪農のグローバル化及びグローバル競争下の持続可能な酪農について。

また、キャトル・リサーチ・センター代表 小岩政昭氏より「経営安定に向けた子牛の生産と育成管理」と題し、子牛の下痢に対する処置、初乳給与法、免疫機構などについてそれぞれ講演され、より良い未来へ向けたシンポジウムとなりました。



前田浩史 講師



小岩政昭 講師





北アメリカ・カナダ

海外酪農視察研修 報告

白糠支所 営農課営農係長
高野 明 徳



11月3日から12日の日程にて道内各地の若手生産者8名、運営協力会1名、JA職員3名、よつ葉乳業(株)2名、(株)野澤組2名の総勢16名にて、アメリカ、カナダでの酪農視察研修を行いました。

【アメリカ視察】

11月5日

○Roseendale Dairy 視察

当牧場は、Milk Source LLCに所属する Wisconsin 州で2番目に大きい牧場です。

経営面積2,300^{ha}(約920^{ha})、ルーサン・デントコーン作付。飼養頭数は1,000頭、搾乳牛8,000頭、年間乳量112,420t(日量308t)、80

Pのロータリーパーラー2台で搾乳を行っており、非常に大規模な牧場です。搾乳中には牛が暴れミルクが脱落しても再装着はしておらず、その理由として、搾乳を牛に慣れさせるための事でありました。

糞尿処理方法については、臭気対策のためバイオガス発電を実施し、液肥は全量を畑へ還元しておりました。また、牧場の従業員は海外から多数雇用しておりましたが、給料や有給休暇、従業員に対する感謝祭を実施するなど従業員の満足度も高く人手不足は無いとの事でありました。

○Abel Dairy Farms 視察

1996年にFS牛舎を建設し、2002年に牛舎を拡

張。現在は搾乳頭数1,700頭ですが、将来的にはロータリーパーラー(80P)を建設し、3,400頭の搾乳を目指しておりますが、現在のアメリカの乳価は約35円/kgと安いいため長期的なスパンでの規模拡大を検討しているとの事でありました。

FS牛舎では砂のベッドを採用しており、以前までは砂の導入費用が年間345,000\$ (日本円4,175万円)と負担が大きかったため、コスト削減のため2017年



FS牛舎内 (砂ベッド)



テント式の大規模牛舎

にサンドセパレーター（リサイクル装置）を導入。導入経費は1,000,000\$（日本円1.5億円）を要したが約4年で回収が可能であるとの事でした。

また、当牧場では育成牛をネブラスカ州の牧場（共同所有）へ預託しており、預託する理由として、従業員確保の問題、また、ウイスコンシン州よりも飼料代が安価であり、糞尿処理等の法律も緩和されているためとの事でした。



共進会で多数の賞を受賞

当牧場は飼養頭数6,000頭、搾乳牛2,400頭と大規模農場であり、平均乳量も17,000kgと極めて高く、過去には35,000kgと世界一となった乳牛や、生涯乳量100,000kgを達成した牛の頭数もトップクラスを誇ります。また、共進会に於いても多数の賞を受賞する非常に牛群レベルが高い農場です。

○Simers Holsteins 視察



ショウカウ

この牧場では、以前は牛床マットを敷設していましたが、14年前に砂のベッドへ転換して以降、体細胞数の減少や飛節の状態が改善する等の効果が表れているとの事でした。

また、生乳生産以外にも若牛を年間700頭、種雄牛についても年間50頭程度の外部販売（年間販売額1億円）を行っているとの事でありました。



学生との意見交換会

ウイスコンシン州大学はアメリカの中に於いて酪農関係ではトップレベルであり、また学生の67%は酪農家の子供であり、内70%を女性が占めております。学生の卒業後の進路としては、酪農家25%、獣医系30%、酪農関係の仕事（飼料・機械メーカー等）45%の割合であり、酪農関係の仕事に就く人の多くは、最終的には自分の牧場へ就農するとの事でした。

11月6日
○ウイスコンシン州大学訪問
（学生との意見交換会）

《学生との意見交換》

男女6名の在学生・卒業生との意見交換を行いました。

①大学へ進学するメリットは
在学中は「インターンシップ」や「デイリーチャレンジ」のカリキュラムを通じてマネジメントを学ぶ事ができ、共通の考え方の仲間、外部の知識が得られ、視野が広がり、また、就農後も大学（教授）との協力体制も整っており相談する相手がいる安心感もある。

②なぜ酪農家を目指した？

今回参加した、学生は農家後継者であったため、ほぼ全員が子供のころから牛に慣れ親しんでいる生活であった。また先祖代々続く酪農は世界への飼料供給を担っており、誇りある仕事であるため継ぐのが必然であるとの考え方であった。

③規模拡大への不安は？

アメリカは日本と比較すると乳価が安い「①経済的不安」や生産を維持するための「②労働力確保」、ふん尿処理等の「③環境問題」について特に大きな不安・問題があるとの事でした。

学生の意見を伺い、乳価、環境問題、様々な問題に直面しながらも、自身の考えが明確であり目指すべき目標が定まっている印象を受けました。

【カナダ視察】

11月8日

○Val Bissong
arm視察

タイストール用搾乳ロボットを導入している牧場で、搾乳頭数65頭（内50頭ロボット搾乳）、15頭はミルカーでの搾乳（治療牛）。また、平均

乳量は12,000kg／頭と比較的日本と同規模の農場であります。

タイストール用搾乳ロボット（ROBOLEO）の導入経過としては、当牧場は後継者が不在であり、また経営主も50代と比較的高齢であるため、牛舎施設の改造を行わず導入が可能な搾乳ロボットを採用したとの事です。



タイストール用ロボット

《タイストールロボット仕様》

・1台あたり1日に150回の搾乳が可能。1頭当たりの平均搾乳時間約8分。

※50頭搾乳の場合は3回搾乳（50頭×3回＝最大150回）が可能。しかし、75頭を搾乳する場合は2回搾乳（75頭×2回＝最大150回）が限界となる。

・ロボットの稼働時間は1回につき7時間×3回＋洗浄（1日3回＋フィルター交換必要）。
・ロボットでの搾乳時機械が尿溝を越すようにせり出し、牛が約1m程度後退し搾乳を開始。



ロボット搾乳中

・抗生物質投与牛もロボットで搾乳し生乳を廃棄する事も可能ですが、搾乳後の洗浄に



5分程度の時間を要するため、1日の搾乳回数が減少する。
 (通常時は約20秒程度の洗浄。)
 ・ロボットの導入費用は1台約5,000万円(レール等の設置工事費及び年間のメンテナンス料含む)耐用年数は約15年。
 ・牛舎通路幅(1.8m~2.4m)や牛舎高さ(2.5m以上)によっては既存牛舎への設置が不可能となります。
 尚、カナダでは約15%程度の牧場が前述の理由により設置が出来なかったとの事です。
 また、現在のところ日本では、電圧の関係により導入は出来ない状況との事です。
 「ROBOLEO」の製造メーカーであるMilkoma社によると、今後は改良を重ね、将来的には日本での導入についても検討しているとの事でありました。



ロイヤルウィンターフェア

カナダで行われる冬の農業祭で毎年11月上旬から中旬にかけて約10日間程度開催されます。牛のみならず馬や豚、羊など様々な動物の展示が行われておりました。牛の共進会では450頭(未經産285頭、経産165頭)の牛が出品されており、出品された乳牛は非常に優れた牛ばかりでした。

11月9日

○Royal Agricultural Winter Fair 視察

【海外視察研修を終えて】

日本とアメリカでは飼養頭数規模や耕地面積については格段の違いがありますが、現在では乳質にも最大限の気を使って良質乳生産を行い、また、農場内・農場周辺も綺麗に手入れされており、繊細さを感じました。更には、今回の海外視察を通じて経営規模の大きさに関わらず飼養管理については基本的な作業を忠実に行うことが重要であると再認識致しました。

最後になりますが、今回の海外酪農視察研修にあたり、JA及び各関係機関に於かれましては、このような視察に参加する機会を頂き誠に有難うございました。



牛体を汚しつらくするために

牛体や乳房の汚れは、乳質を悪くしやすいだけでなく、日々の乳牛と接する管理者のテンションを下げてしまいます。また飼料設計にあたる人は、サイレーシなどの分析値や乳検成績といった情報を参考に計算しているでしょうが、牛体の汚れが目立つ農場では無理をしないことが基本となります。これを考慮せず、パソコンで数値合わせだけで設計してしまうと、乳牛を次々とダメにしてしまうリスクが高まります。牛体の清潔度を高く維持することは、実はかなり高い価値のある管理技術と言えます。

* * *

これまで施設面から牛体の汚れ防止を解説してきましたが、今回は尾の汚れと敷料から考えてみましょう。

尾が汚れていると、牛体が汚れやすくなるばかりか、搾乳中に振り回されて顔などに当たる



と思わずムツとしてしまいます。つなぎ牛舎では尾吊りをされる農場もあります。横臥した際に、尾に負荷がかからず、しかしバーンクリーナに落ちない絶妙な長さにするようコントロールするようにします。ルールともの間にはゴムを入れると扱いやすくなります。しかし、ついたり外したりするのが面倒で、いつの間にか尾吊りをやめてしまう農場も少なくありません。

この点、断尾は有効な手段です。しかしやはり尾はしっかりとついていた方がいいと思われるのも当然でしょう。主に体を汚すのが尾の先のフサフサの毛なので、これをトリミングしてやるだけでも相当体の汚れを防ぐことができます。ある

農場では、搾乳時に使用する台車にハサミを常備しておき、ちよつと手の空いた際にカットされてました。これはわずかな手間ながら、牛体をキレイに保つのはかなり有効な手段です。もちろんフリーストールでもフサフサ除去は効果的ですので、年に数回、カットしてやることは人も結構スッキリした気分を味わえます。



* * *

牛床に敷料は必須です。敷料がなくても良いのは、放牧地と管理の行き届いたフリーバーン、それに砂の牛床くらいでしょう。いくらクッション性を売りにしている牛床マットであっても、乳牛が本来必要としている安楽性を提供できるものは現在ひとつもありません。また同時に牛床からはなるべく水分を適時、

除去しなければなりません。クッション性の確保と水分コントロールを日常の管理で行いやすくするためには、敷料が欠かせません。ところが根釧では敷料確保がなかなか大変です。畑作地帯でも麦かんが貴重品となってきたいますから、酪農専業地帯ではますます大変でしょう。しかしながら敷料を適量使い続けることで、乳牛はそれ以上の効果を上げてくれます。可能であれば、おが粉やもみ殻を十分にストックできる場所を確保し、一度に大量に農場に運び込めても管理できるようなしたいものです。



※情報提供は釧路農協連より





図1 蹄の構造と蹄病の発生要因
(酪農家ができる肢蹄のモニタリングと削蹄技術より抜粋)

酪農家ができる削蹄技術

定期的な削蹄は、多くの酪農家を悩ませる「蹄病」の予防に効果的です。しかし、蹄病に罹患した牛を発見した時は、できるだけ早く治療（削蹄）することが大切です。

一 削蹄が必要な理由

蹄は堅い部分である蹄鞘、蹄の角質を生成する蹄真皮、蹄骨からなっています（図1）。

蹄の重心は趾軸に対して真っ直ぐになっていますが、蹄が伸びて蹄尖（つま先）の角度が低くなると重心が蹄踵（かかと）にずれ、蹄骨の一部が蹄真皮を圧迫します。圧迫が長引くと、蹄真皮が炎症し角質の形成が不安定になります。

二 削蹄手順

そのため、蹄の形は削蹄により正常に保つことが必要です。

普通、蹄は前足は内蹄、後足は外蹄の方が大きいので、基準となる小さい方の蹄から削蹄します。つまり、前足は外蹄、後足は内蹄から削蹄を始めます。

ステップ1 基準蹄をつくる

①基準蹄の背壁の長さ（蹄の硬くなっている部分から蹄尖まで）が7.5cmになるよう剪鉗で伸びた部分を切除します（写真1）。



写真1 ステップ1
①背壁を7.5cmに整える

②蹄尖の角度が50〜52度になるように蹄底を削ります（写真2）。蹄尖を重点的に削り蹄踵はほとんど削りません。

この際、グラインダーがあれば、素早く削ることができます。



写真2 ステップ1
②蹄底の角度が50〜52度になるよう削る

ステップ2 もう一方の蹄を合わせる

基準蹄に合わせて、もう一方の蹄を削蹄します。背壁を整え、蹄底を削り、基準蹄と蹄底面が同じ高さになっているか都度、確認しましょう。削りすぎて凹んだ場合は、無理に整える必要はありません。

ステップ3 土抜きをつくる

土抜き（土踏まず）は、内蹄と外蹄の負面（地面と蹄底が接触する部分）の面積を等しくするためにつくりまします。土抜きの範囲は、白線の始まりから軸側の白線が見えなくなる部分までの幅の1/3です（後足の外蹄は2/3）（写真3）。括削刀で下から上へ向かって削るのがコツです。指で蹄底を押して、柔らかく感じたらそれ以上は削らないようにしましょう。

仕上げるにグラインダーで蹄の縁を滑らかにします。



写真3 下から上へ向かって蹄底を削り土抜きをつくる

三 乾乳（育成）期の削蹄効果

削蹄は、分娩1〜2カ月前に行うと泌乳前期の蹄病が軽減され、乳量が増加するという研究成果が報告されています。

実際、日々の作業の中で削蹄を行うのは困難かと思えます。そこで、まずは乾乳群へ移動する際に足の悪い牛だけでも削蹄してはどうでしょうか。

四 最後に

今回紹介した削蹄方法は、酪農試験場のHPで公開されています。また、削蹄講習会のビデオが普及センターにありますので、ご要望の方はご連絡下さい。尚、削蹄を行う際は、安全に十分注意して行ってください。

第29回 J A北海道大会(平成30年11月13日)
「パネルディスカッション」
 テーマ「多様化する組合員ニーズに応える
 新たな協同組合の価値創造」

J A北海道大会当日に開催したパネルディスカッションの内容を2回に分けてご紹介します。(2回目)



宮入 隆氏
 北海学園大学 教授

で、ではなく、協同組合が連携して新たな課題に対応できるのではという観点で討論したいと思います。

行友 弥氏

(株)農林中金総合研究所
 顧問 特任研究員

東北の被災地では農業や漁業再生のため土壌スクリーニング(放射能測定)、漁場再生、農地のがれき処理などで、生協組合員が活躍しました。



漁業では、壊滅した三陸のカキの養殖を、ライバルである広島が稚貝を提供して復活させました。協同組合には、地域や分野を超えて連携する底力があるのです。多様な人々が互いに支えあう協同組合の可能性は、垣根を越えた連携にこそあるのだと思います。

宮入教授 生協側から見たJ Aへの期待、連携してできること、今後の課題、期待などを教え

て下さい。



青竹 豊氏
 (社)日本協同組合連携機構
 (JCA)常務理事

ますが、遊休施設もある。生協は施設が少ないので、一緒に活用できれば助かる。組合員・職員が一緒に取り組めば、よりプラスになることを見つけて、やっていきたい。

生協連で災害対策も担当したが、災害時、生協とJ Aがそれぞれで被害把握と対応をしています。一緒に助け合いができないでしょうか。食材などの支援物資をJ Aからも頂ければ、生協のトラックで運べます。今年は、災害が多かったこともあり、連携の大切さを実感しています。**宮入教授** J A施設と生協の流通網を生かすともっと力強い繋がりの中で、事業ができると思います。

小野寺 俊幸氏

J A北海道中央会副会長
 J Aとこころ 会長理事

山に木を植えることから連携が始まり、ガソリンスタンドや石灰工場をJ Aと漁協で協



同して経営しています。また、漁協者が、ホタテの稚貝を撒く時には、農家組合員の若い人も手伝いに行き、漁業者も、農家が忙しい時には手伝うなど、地域産業を盛り上げようと頑張っています。

地域を守るため、J A北海道厚生連にも入ってもらい、老人ホーム建設費用をJ Aと漁協で

出し合うなど、協同組合間で連携してしっかり対応する。

地域から人がいなくなると、店や学校がなくなり、大変な事態になります。一生涯、農業者は土とともに生活でき、漁業者は魚を取れるよう、家族経営を大事にしたい。地域内での協力は大事だと思います。

宮入教授 地域ですと生きていく想いがあつて初めて、地域で協力できるというお話でした。漁業の労働力が足りない時に、農業者が手伝う連携の話はすごい。多くの人に知って欲しい事例です。

地域課題が多様化する中、協同組合が核となり、連携する形を考える重要性を改めて認識しました。

生協とJ Aの連携で職員の連携・出向などの人的交流の状況を教えて頂きたい。

青竹常務 実例は、多くないですが、鹿児島では、経済連にコープの中堅職員が、経済連からもコープに出向し、商品の共同開発も進めています。連携を深めるには、人と人の交流が重要だと思っています。

協同組合同士で相互に学び合うグループワーク形式の学習会が増えています。それを通じ、困った時に相談できる人間関係ができれば、連携のベースになります。

茨城では、J A、生協を含む41の協同組合・団体で協同組合ネットワークを作っています。

無理に進めず、お互いに強みを持ち寄り、ダメ元でも、まずやってみる。「ゆるやか」「あいのり」「やってみる」をキーワードとする活動ですが、このキーワードは、協同組合間連携のヒントになると思います。

第2号議案で、地域の様々な団体・自治体等との連携も掲げています。知らない者同士、考え方も歴史も違うので、色々あると思いますが、



違いを認めることが、連携を進めるうえで重要だと思っています。

宮入教授 上手くいった事例は紹介されますが、色々な失敗もあるという話で、いっぱい取り組んでみないと成功も出ません。まずは、やってみて、お互いに学び合う。学習会などの緩やかな形で情報交換を通じて、互いの強みや抱える課題を、共有することで、連携の種になるという示唆を得ました。

行友顧問 少し話がずれますが、こども食堂の支援をしているJ A東京中央の事例をご紹介します。

元々、強い理念があったわけではありません。子ども食堂を運営する市民団体が規格外の野菜を食材として分けて欲しいと、社会福祉協議会を通じて要請してきたのが発端です。J A青年部で協議した結果、規格外ではなく正規品を出すことになり、差額をJ Aが負担して供給する仕組みができました。

これを機に、J A職員が社会福祉協議会主催のこども食堂ネットワーク会議に出席するなど、地域との繋がりが強まりました。食堂には畑の写真が貼られ、都市農業の現状を知ってもらい食育の機会にもなっています。参加者を畑に連れて行き、農作業を体験してもらおうという話も出ているそうです。

地域課題に対応しようとして模索を重ねた結果、新たな繋がりができて地域が強くなる。それが望ましい形だと思っています。理念先行ではなく、気がついたら繋がっていた。協同組合間の連携もそれが本来の姿ではないでしょうか。

それぞれの協同組合が互いの得意分野を活かし合い、自然に連携していく。そうなる芽は、たくさんあります。逆に言うと、それだけ地域には様々な課題があるということです。

宮入教授 気がついたら連携していた取り組み

がほとんどあれば良いと思います。

これからの抱負、連携についてお話し下さい。
小野寺副会長 時代に即した協同組合を再構築しないといけないという想いを持っています。コンサドールなどの結びつきがあり、大学としては、北海道大学や道教育大とも連携しています。

道教育大の将来先生になる学生に、青年部員の家に泊まる農村ホームステイをしてもらい、農業の現場・実態を見て頂く。そして、先生になったときには、しっかり子供たちに農業を教えてもらう取り組み。青年部が学校に向き、じゃがいもや小麦の作り方を伝える、出前講義を行うなど色々な形の連携が増えていきます。

協同組合の価値をどう創造していくか。本日を原点として始めて頂き、新たな協同組合のあり方を再構築するとともに、協同組合間の連携で、大きく発展していくことを願っています。

宮入教授 協同組合は、すでに地域の課題解決に取り組んでいます。交流の中で、互いの価値を見つめ直し、新たな連携が生まれ、それが皆さん自身の活動の見直しにも繋がっていくことを願っています。最後に一言ずつお願いします。

行友顧問 農業や漁業の取材をして感じるのは、生産と消費の現場が遠いことです。農家は消費者のニーズを直接知る機会が少なく、消費者も農業者の苦勞や想いを受け止めることがない。そのすれ違いが農業や漁業を衰退させてきた一因ではないかと思っています。J Aや漁協、生協はまさに生産と消費を繋ぐ団体であり、連携を強めてほしいと思います。

昔の農村共同体は同質な人々の集まりでしたが、今は農業者の規模や作目、経営形態も様々。地域には農家でない住民も大勢います。互いの違いを認め合い、足らざる部分を補い、助け合うことが、これからの社会が目指すべき方向ではないでしょうか。

協同組合は、その要になれる組織です。そのような思いを持って、今後の事業活動を展開していただけたらと思います。

青竹常務 第2号議案で、協同組合の理念に基づく「人づくり・組織づくり・事業づくり・地域づくり」を進めると宣言しており、改めてこれが協同組合だと実感しました。協同組合が皆さんの役に立つ存在になれるよう、皆さんと力を合わせて参りたい。

宮入教授 組合員が多様化する中、組合員になって良かったと思ってもらえるかどうか。生協の事例にもありましたが、組合員の想いを形にする、事業にしていけることが、参加やニーズの多様化に対応する1つの答えになるのではないのでしょうか。協同組合に集まるからできることを、整理して捉え直せば、新たな協同組合の価値創造に繋がると 생각합니다。

すでに、皆さんが取り組んでいる内容は、子ども食堂を含めて、SDGsにほとんど当てはまる。地域課題と構成員が多様化する、難しい時代の中で、もう一度整理するきっかけとして頂きたい。

J Aは、もっと多様な役割を担っていると発信するためにも、新たな協同組合の価値創造は意味があります。

太田原先生が、北海道は、協同組合で地域が成り立つコープアイランドだと言っており、J Aだけでなく、様々な連携で発展して行けるのではないのでしょうか。本日は、ありがとうございました。



大会式典に先立ち、生協組合員から災害支援金1億円の目録贈呈が行われました。



安全確認と予防対策で公道での農機による死亡事故を防ぎましょう!

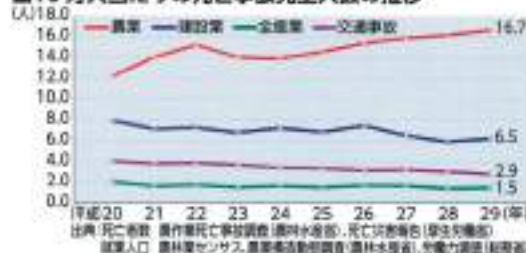
トラクターや運搬車などの操作ミスが転落・横転の事故を引き起こします。

農林水産省の最新の調査データによると、近年300人以上の方々が農作業中の事故で亡くなっています。

グラフからもわかるように、農作業中の死亡事故は一般交通事故の約6倍、建設業の約3倍にも及びます。

農機事故を未然に防ぐために操作時の安全確認と予防対策をもう一度考えてみましょう。

■10万人当たりの死亡事故発生人数の推移



■原因別の農業機械作業に係る死亡者数

(平成29年乗用型トラクター、農用運搬車)



詳しい原因、対策は裏面へ...



公道での農機による 死亡事故例から学ぶ 事故の要因と対策



出典：平成29年度 農機事故統計
農機が関与する交通死亡事故の事故形態別件数

事故発生の 要因

公道での農機の死亡事故は大きく**単独事故**と他の車両からの**追突事故**の**2種類**があります。

単独事故

1.用水路等への転落

運転操作ミスや道路環境が悪いことにより、田畑や用水路等へ転落。

2.傾斜地での横転等

農機は通常の車に比べ重心位置が高いため傾斜地等でバランスを崩して横転。傾斜地等で自然に動き始めた農機にひかれる事故。



追突事故

夜間等における追突

夜間は後続車から農機が発見されにくく、追突事故が起こる。昼間のトンネル内でも追突事故の事例がある。



事故防止の 対策

公道での農機による死亡事故対策の**3つのポイント**、対策と準備が重大な事故を防止します。

ポイント 1 確実な運転操作とブレーキ連結の確認

農機による死亡事故は、ハンドルやブレーキ操作ミスによる単独事故が多いため、道路状況等に応じた確実な運転を行いましょう。
道路走行時は必ず左右のブレーキを連結しましょう。
ブレーキ連結をしていないと、ブレーキを踏んだときに急旋回して転落、横転する事故につながる恐れがあります。

ポイント 2 安全キャブ・フレームの装着とシートベルトの着用

救命効果の高い安全キャブやフレームが付いているトラクターを利用しましょう。(安全フレームは倒さずに使いましょう)
トラクター等の農機運転中は必ずシートベルトを着用しましょう。
転落や横転、追突された場合に身体が投げ出されるのを防ぎます。
また、ヘルメットの着用にも努めましょう。
※車種によっては取り付けられないものもあります。



ポイント 3 低速車マークや反射板の取り付け

一般車両との接触や追突を防ぐためには周囲に気付いてもらうことが大切です。後続車から見えやすい位置に「低速車マーク」や「反射板」を取り付けましょう。走行する前に低速車マークや反射板が泥で汚れたり、積載した荷物で隠れていないかチェックを。また、夕暮れ時は早めにライトを点灯しましょう。



農林水産省

警察庁

JA共済

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

JAグループ北海道は、平成31年3月、札幌市内にて、札幌市と近郊の児童養護施設を対象とし、コンサドーレ札幌の試合チケットと、札幌交響楽団のコンサートチケットの贈呈式を行いました。この取り組みは、JAグループ北海道が社会貢献活動の一環として、平成19年度より実施しており、今年度はサッカーの試合に560名、コンサートに50名を招待します。チケット贈呈にあたり、「農家の方々からのプレゼントです。試合やコンサートに出かけるときは、プレゼントしてくれた農家の方々のことを思い出してくれると嬉しい。楽しんで来て下さい。」との言葉とともに代表児童2名にチケットを手渡しました。



JA北海道信連

JAバンクのマスコット・キャラクター「ちよリス」に新しい仲間「よりぞう」が加わることになりました。今後、より一層地域の皆様に寄り添い、どんなときでも気軽に相談して頂ける存在でありたい、そんなJAバンクの想いから「よりぞう」は生まれました。

JAバンクは、「よりぞう」「ちよリス」とともに事業展開を行って参りますので、ご愛顧の程よろしくお願ひ申し上げます。



ホクレン

酪農家の拠出による運動「ミルクランド北海道」の一環として、北海道産牛乳・乳製品の専門カフェ「MILKLAND HOKKAIDO」↓「TOKYO」を、初の常設店舗として、東京・自由が丘に3月6日オープンしました。お店ではこだわりの北海道産牛乳やチーズを品揃えするほか、牛乳をふんだんに使用した料理メニューも提供。



JA共済連北海道

JA共済連北海道は、3月13日に北海道スバル白石店にて、交通道德の向上と交通事故防止への取り組みを行う北海道交通安全推進委員会へ、交通安全を呼びかける交通安全広報車として、スバル社製のアイサイトを搭載し、安全性・操作性に優れた「レヴォーグ」を寄贈いたしました。

JA共済連は、組合員・地域住民の安全・安心に貢献できる活動にこれからも取り組んでいきます。



JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様との生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。





辞 令 発 令

(平成31年 4 月 1 日付)

氏 名	新 所 属	旧 所 属
山 本 晃 平	営農部 農業振興課農業振興係	営農部 農業振興課農業振興係兼農業支援係
門 彩 夏	白糠支所 金融共済課金融共済係	音別支所 金融共済課金融共済係

新採用職員の紹介



たけだ はやと
竹田 颯斗

■所属部署／畜産生産部 家畜改良課家畜改良係

■年 齢／20歳

■出 身 地／白糠町

■出 身 校／北海道立農業大学校（H31年卒）

■趣 味／バスケットボール、読書、音楽鑑賞

■特 技／計算

■組合員の皆さんへ一言／自分は北海道立農業大学校を卒業して、家畜人工授精師として釧路丹頂農協に勤めることになりました。まだまだ未熟者ですが精一杯努力して少しでも早く一人前になって酪農家の皆さんの力になれる様にこれから頑張っていきます。



よしかわ たいせい
吉河 太成

■所属部署／営農部 農業振興課農業支援係

■年 齢／18歳

■出 身 地／釧路市

■出 身 校／釧路北陽高校（H31年卒）

■趣 味／ドライブ、温泉めぐり

■特 技／サッカー、バスケットボール

■組合員の皆さんへ一言／今年から釧路丹頂農協で働かせていただく吉河太成と申します。私は、農業とは全く関係の無い高校から来たので、知識はゼロに近いですが、先輩方とたくさんコミュニケーションをとって、1日でも早く、一人前の農協職員になりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

退職のご挨拶



泉 哲也
鶴居村乳牛検定組合
(出向)

春の訪れと共に畑も顔を出す陽気となりました。皆様におかれましてはご健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。さて、私事でございますが、昭和57年からJAに籍を置かせていただき鶴居村乳牛検定組合に出向という形でお世話になって30年以上が経ち、この度3月31日をもって定年を迎えることとなりました。永年にわたり組合員の皆様をはじめ関係機関の方々、役職員の皆様にご指導、ご協力いただき何とかここまで務めることができた事に感謝申し上げます。

「安全でおいしい牛乳を食卓へ運び、豊かな気持ちで営農を続けてもらう」という思いで微力ではありますがお手伝いしてきたつもりです。少しでも組合員の皆様のお役に立てたなら良かったのですが...

今後も組合員の皆様とJAをはじめとした関係機関が手を取り合って皆が前を向いて働き営農に取り組める環境であることを心より祈っております。

もうしばらく、鶴居村乳牛検定組合にお世話になりますので引き続きよろしくお願い致します。ありがとうございました。

理 事 会 報 告

2月定例理事会 平成31年2月27日(水)

報告事項

1. 専決事項及び諸会議について
2. 各委員会・諸会議等について
3. 1月末財務状況について
4. 事業の実施処理状況について
5. 第3次地域農業振興計画・JA中期経営計画(機構改革含む)策定に係るJAと酪農振興会との意見交換会の実施報告について

- 議案第7号 特定組合員に係る特別運用基準の対象者について
- 議案第8号 諸規程等の一部変更について
- 議案第9号 諸規程の制定について
- 議案第10号 理事会役員推薦委員の選任について
- 議案第11号 役員報酬審議会の設置について
- 議案第12号 従業員に対する年度末賞与の支給について

付議事項

- 議案第1号 組合員の資格審査について
- 議案第2号 出資の減口承認について
- 議案第3号 融資の承認について
- 議案第4号 平成31年度監査計画の策定について
- 議案第5号 平成30年度 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業の承認について
- 議案第6号 固定資産の取得について

その他協議事項

1. 平成30年度決算処理方針(案)について
2. 平成31年度事業計画(案)について
3. 「第3次地域農業振興計画・JA中期経営計画(機構改革含む)」に係る地域農業・JA経営基本目標と重要課題(案)における部門別の具体的取組方策の「要約版」について
4. 当面の業務日程について

3月定例理事会 平成31年3月28日(木)

報告事項

1. 専決事項及び諸会議について
2. 各委員会・諸会議等について
3. 2月末(決算)財務状況について
4. 事業の実施処理状況について
5. 自己査定結果について
6. 経営定期点検の実施結果について
7. 平成30年度事業報告及び決算概要について
8. 平成30年度内部監査の業務活動報告について
9. 会計監査人選任の件について
10. 内部統制(コンプライアンス・プログラム含む)及びリスク管理に係る取組状況について
11. 役員報酬審議会の結果について

- 議案第8号 建物施設整備積立金規程の制定について
- 議案第9号 諸規程等の制定について
- 議案第10号 第13回通常総会の招集および提出議案について
- 議案第11号 議決権行使書面の取扱いについて
- 議案第12号 信用の供与等の最高限度額設定について
- 議案第13号 理事に対する資金の貸付について
- 議案第14号 役員と組合との取引基準の決定について
- 議案第15号 平成31年度の余裕金運用について
- 議案第16号 平成31年度コンプライアンス・プログラムの設定について
- 議案第17号 平成30年度畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業の承認について
- 議案第18号 固定資産の取得について
- 議案第19号 固定資産の処分について
- 議案第20号 平成31年度経営定期点検実施計画書の策定について
- 議案第21号 諸規程等の一部変更について
- 議案第22号 今後の事業運営の方向性について

付議事項

- 議案第1号 目的積立金の目的取崩について
- 議案第2号 平成31年度(第14年度)事業計画の設定について
- 議案第3号 平成31年度諸利率・料率の設定について
- 議案第4号 貸付金の利率の最高限度について
- 議案第5号 定款の一部変更について
- 議案第6号 (規約附属書) 監事監査規程の一部変更について
- 議案第7号 第3次地域農業振興計画およびJA中期経営計画の設定について

その他協議事項

1. 春季地区懇談会の開催について
2. 当面の業務日程について

■平成30年度 生乳生産実績	(2月)				(3月)			
	月計乳量(kg)	2月前年比(%)	累計乳量(kg)	累計前年比(%)	月計乳量(kg)	3月前年比(%)	累計乳量(kg)	累計前年比(%)
JAくしろ丹頂	7,760,543.4	99.7	92,893,227.2	102.6	8,642,498.9	99.8	101,535,726.1	102.4
鶴居地区	2,965,407.8	105.7	34,640,594.7	106.6	3,249,722.2	103.3	37,890,316.9	106.3
幌呂地区	2,011,161.4	97.9	23,963,619.9	99.6	2,267,586.8	99.5	26,231,206.7	99.6
白糠地区	1,555,990.0	97.8	18,474,078.1	99.7	1,735,195.2	99.0	20,209,273.3	99.7
音別地区	1,227,984.2	92.2	15,814,934.5	102.5	1,389,994.7	93.8	17,204,929.2	101.8
管内計	40,362,700.9	98.6	482,399,215.7	99.9	44,910,066.5	99.3	527,309,282.2	99.8
(前年度管内計)	40,918,057.1		483,003,894.2		45,218,297.8		528,222,192.0	



北海道の食と農の情報いっぱい。

JA²MP [ジェイエイ・ジャンプ]
を使ってみよう

JA²MPとは?

JAグループ北海道が送る、北海道産農畜産物と出会う情報アプリです。アプリと一緒に出かけをして、実際に訪れた関連施設でチェックインをすれば、チェックインポイントをゲット! たまったポイントでプレゼントキャンペーンに応募すれば、抽選でおいしい北海道の農畜産物も当たります。

まずは
ダウンロード!



ナンプレにチャレンジ!!

～ちょっと一息～ あたまの体操のコ～ナ～

リフレッシュ
できるかは、
あなた次第!?

※問題を解くカギは下に書いてるよ! 気軽にやってみて!!

					3	1		5
			6	8		9	4	3
4		3	5		1	7	8	
	1			3	5	4		9
5			2	6				
		6	9		8	5		2
9		4	1	7	2	6		
1			3		6	2		7
	2		8	5	9			

★ ナンプレのルール ★

- 【1】 どのタテ一列にも1～9の数字が1個ずつ入る。
- 【2】 どのヨコ一列にも1～9の数字が1個ずつ入る。
- 【3】 区切られた3×3のどのブロックにも1～9の数字が1個ずつ入る。

ルールを言いかえると

- 【A】 どのタテ一列にも同じ数字は入らない。
- 【B】 どのヨコ一列にも同じ数字は入らない。
- 【C】 区切られた3×3のどのブロックにも同じ数字は入らない。



3月の答え

8	2	5	7	3	1	6	9	4
6	3	4	2	9	8	7	5	1
1	7	9	6	4	5	8	3	2
9	8	6	4	5	2	3	1	7
3	5	1	9	8	7	2	4	6
2	4	7	1	6	3	9	8	5
4	6	3	5	2	9	1	7	8
7	9	2	8	1	4	5	6	3
5	1	8	3	7	6	4	2	9

今回の答えは次月号に掲載するよ!!

JAしろ丹頂 ゴールデンウィーク日程表

部門 年月日	各 地 区 の 事 務 所			販 売		家畜改良	生 乳	哺育育成 センター	幌 呂 育成牧場
	管理・共済	金 融	営 農	鶴居・幌呂	白糠・音別	鶴居：幌呂 白糠：音別			
平成 4 月 27 日(土) 31 年							通 常 業 務		
4 月 28 日(日)									
4 月 29 日(月)				初 生 集 荷					
4 月 30 日(火)									
令和 5 月 1 日(水) 元年									
5 月 2 日(木)				一 般 市 場					
5 月 3 日(金)									
5 月 4 日(土)									
5 月 5 日(日)									
5 月 6 日(月)							↓	↓	↓

年月日	部門	購買・鶴居			購買・幌呂			購買・白糠		購買・音別		
		生活店舗	給油所	資 材	生活店舗	給油所	資 材	給油所	資 材	生活店舗	給油所	資 材
平成 4 月 27 日(土)	31 年					*						
4 月 28 日(日)												
4 月 29 日(月)												
4 月 30 日(火)		午後5時まで								午後5時まで		
令和 5 月 1 日(水)	元年	特売 午後5時まで								特売 午後5時まで		
5 月 2 日(木)		午後5時まで								午後5時まで		
5 月 3 日(金)		午後5時まで								午後5時まで		
5 月 4 日(土)						*						
5 月 5 日(日)												
5 月 6 日(月)												

*午前中のみ営業となります。

営業日 休業日

・ゴールデンウィーク期間中もJAバンクのキャッシュカードは各種コンビニ等でご利用いただけます。

※稼働時間、手数料はATMにより異なります。

・万一、交通事故が発生した時は、フリーダイヤル(☎0120-258-931)に電話をして下さい。事故の受付とアドバイスをしてくれます。

◆鶴居地区の皆様へ

- ・生産資材に関することは、田中課長(090-5074-2374)に連絡して下さい。
- ・万一、配合飼料が無くなった時は、田中課長もしくは大松運輸(57-8388)に連絡して下さい。

◆幌呂地区の皆様へ

- ・生産資材・給油スタンドに関することは、泉課長(090-7055-1541)に連絡して下さい。
- ・万一、配合飼料が無くなった時は、全酪連釧路事務所(小松原職員080-5471-3655)か(岡田職員080-6540-4620)に連絡して下さい。

◆白糠地区の皆様へ

- ・生産資材に関することは、大石課長(自宅6-2734 携帯090-1640-0376)に連絡して下さい。

- ・万一、配合飼料が無くなった時は、幸永運輸(0154-57-2777)に連絡して下さい。
- ・給油スタンドに関することは、給油所(2-2084)に連絡して下さい。

◆音別地区の皆様へ

- ・生産資材に関することは、林課長(090-8905-1705)に連絡して下さい。
- ・万一、配合飼料が無くなった時は、幸永運輸(0154-57-2777)に連絡して下さい。
- ・給油スタンドに関することは、若狭係長(自宅6-3707 携帯090-4870-9101)に連絡して下さい。

◆販売業務について

- ・一般市場の申込み締切は、4月26日(金)迄となりますのでよろしくお願い致します。

□チャレンジ60「946運動」酪農シンポジウムに参加し、前田浩史氏の講演では、市場環境の質的変化等により、世界の酪農は変化し続けており、自由化の流れの中で、酪農製品の市場環境の国際化が進んでおります。「持続可能な農業生産」が、支援・投資・消費の優先される対象となっていく、SDGs(持続可能な開発・振興目標)への取り組みが、競争優位をもたらしていく。人・牛・地域・環境に優しい日本酪農の実現が、これからますます求められていくという今後の日本酪農が改善すべき課題なども含めた説明を受け大変勉強になりました。

編集後記
EDITOR'S NOTE